

2013年(平成25年)7月15日 月曜日

告白しやすい環境必要

性同一性障害
特例法10周年

東京でシンポ

性同一性障害特例法の成立10周年を受けて、当事者団体が14日、東京都内でシンポジウムを開き、GID（性同一性障害）学会理事長の中塚幹也岡山大教授が講演で、自殺未遂や自傷行為をする中学

生の当事者が多いことに触れ「告白しやすい環境をつくるなど学校の役割が重要だ」と話した。

性別適合手術に健康保険が適用されない現状について、日本で初めて公的に性別適合

手術をした埼玉医大の山内俊雄名誉学長は「国に有効性や安全性を認めてもらうためには、手術様式を標準化して、効果を示すことが必要だ」と指摘した。

主催した「日本性同一性障害と共に生きる人々の会」は会員数約1100人の国内最大規模の当事者団体。昨年、国内外で性別適合手術を受けた人を対象にした実態調査を実施し、医療体制に課題があることを示した。